

ななほんゆび

七本指のピアニスト

校長 松本 雅史

今朝は、あるピアニストについてお話をしたいと思います。そのピアニストの名前は、西川 悟平さんといいます。今年に行われた東京パラリンピック閉会式でピアノをひいた方です。このピアニストは、指が動かなくなってしまう難病と闘いながら演奏活動をされています。現在動く指は7本だけです。7本指のピアニストともよばれています。

西川さんがピアノを始めたのは、なんと15歳の時でした。それまでは、特に音楽の成績がよかったわけでもなく、楽譜も読めなかったといいます。何をすることもものんびりしていたせいであだ名は「のび太くん」、ドラえものののび太君です。そんな彼が、中学3年生の時に初めてピアノを始めます。ピアノの魅力にすっかりとりつかれた西川さんは、高校でも練習を続け音楽大学進学をめざします。しかし、何とんでもスタートが15歳では遅すぎます。周りは、音楽大学進学は「絶対無理だ」と口をそろえていうのでした。音大を目指すといっても家にピアノはなく、近くのおばあちゃんの家に通って猛練習したそうです。その甲斐あって、3年後にはショパンの英雄ポロネーズという難曲をひきこなせるようになりました。そして、大阪音楽大学短期大学部に無事合格します。しかし、目指していた大学への編入試験に失敗し、結局、和菓子屋さんに一度就職します。

和菓子を売るかたわら、ピアノの練習と演奏活動を続けていたあるとき、西川さんの演奏がアメリカから演奏に来ていたピアニストの目にとまり、そのピアニストのすすめで、アメリカのニューヨークで本格的にピアノを学ぶようになります。レッスンを受けながら、アメリカの大ホールで演奏会を行うなど、プロとして活動を始めたその矢先、指が急にこわばって動かなくなる原因不明の難病にかかってしまいます。治療法もありません。医者からは「一生ピアノは無理です」と宣告されます。ピアノがひけなくなると、あっという間に仕事もお金もなくなりました。

そんな、彼が友人の頼みで、幼稚園で、かろうじて動くようになった7本の指でキラキラ星をひいたときのことです。「ド・ド・ソ・ソ・ラ・ラ・ソ♪」とひいたら、子どもたちが『きゃー』って言って、おどって歌ったのです。この子たちは曲がった指も、めちゃくちゃな指づかいも気にせず、聞こえてくる音だけに喜んでいました。そのとき西川さんは電気が走ったみたいにパツとひらめきます。“いま動く指だけでひける曲をひこう”と。ゼロからの再スタートでした。

しかし、かつてのようにすらすらひけるわけではありません。その代わりに、一つ一つの音を大切にするようになりました。西川さんはこんな言葉を言っています。「今まで自分自身で聞こえていなかった音の響きが聞こえるようになったんです。音の中に音がある、そんなことがわかるようになりました。」

「15歳からピアノを始めてピアニストに・・・無理！」

「君の指は一生動かない、ピアノは・・・無理！」

「無理」「無理」「無理」・・・そんな「無理」を乗り越えて、今、西川さんは、再びプロのピアニストとして演奏会の舞台に戻ってきました。病気を乗り越えて紡ぎ出されるピアノの音色は、これまで以上に感動を聴く人たちに広げていきます。

「「大変だ、しんどい」と言っているけど、何も変わらない。その大変なことに感謝の気持ちを持って「ありがとう」と言葉にすることで、劇的に奇跡が起こる。失敗してもネガティブにならず、「失敗から学んだこと」に感謝することで、生まれるもののほうが多いんです。」

そして、演奏会を兼ねた講演会で、西川さんはこんな言葉を伝えていきます。「失敗することも大切。でも、失敗した後は、失敗する前の自分よりずっと前進している。昨日よりずっと成長している。頭の中で、自分に限界を作らないでほしい。」

この西川さんの挑戦は、「7本指のピアニスト」という本にもなっています。今週から読書旬間が始まります。近々図書室でも買っていますので、届いたらぜひ手に取って読んでみてください。

では、音楽会に向かって、頑張っていきましょう！